

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

子どもの人権

対象学年・
取り扱った教科等

2年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 集団における自己有用感と自己肯定感を育む。
- ・ 他者理解を深め、配慮ある言葉かけや行動のスキルを学級全体で高める。

実施した内容

- ・ 「ありがとうメッセージ」の取組として、これまでの生活の中での「ありがとう」を伝え合う。(1時間)
- ・ 「エンジェルハート」の取組として、対象となる子をくじで決め、その子の「エンジェル」として、相手がほっとしたりうれしくなったりする行動を行う。(1時間、日常生活)

工夫した点

- ・ 「ありがとうメッセージ」の取組において、全員からメッセージをもらえるようにプリントを用意し記入する時間を確保した。
- ・ 「エンジェルハート」の取組において、誰が誰の「エンジェル」かがわからないように、「エンジェル」としての行動を、他の子どもたちに対してもすることとした。また、子どもの感想を交流することにより、取組の価値を共有し、日常生活につなげられるようにした。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

女性の人権

対象学年・
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・雇用や職場における男女の格差について知る。
- ・男女共同参画についての考えを深め、実践していこうとする意識を持つ。

実施した内容

- ・ジェンダー・ギャップ指数等の調査結果から、男女共同参画社会をつくるうえでの現在の日本の課題を知る。（日本は男女平等？）（1時間）
- ・男女共同参画を実現するためには、社会や自分たち一人ひとりの意識の改革が必要であることに気づく。（誰もが働きやすくするために）（1時間）

工夫した点

- ・話し合いの際に、学習補充資料を提示して小グループで話し合うときに、マイナス面だけでなく、プラス面に目を向け、意見を出させるようにした。
- ・総合的な学習の時間の振り返りシートなどで、自分を見つめる機会をつくった。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

障害者の人権

対象学年・
取り扱った教科等

1年・総合的な学習の時間

目標・人権教
育のねらい

- ・障がい者差別の学習を通して、正しく知ることの大切さを学び、誰もが暮らしやすい社会の実現のために、障がい者の視点で身の回りを見直す態度を養う。
- ・障がいは社会がつくり出しているという社会モデルの考えに立ち、障がい者の人権に係わる問題を解決していく態度を養う。

実施した内容

- ・人権に配慮した人権マークがあることを知る。（人権マーク）（1時間）
- ・「誰もが暮らしやすい社会の実現」のために、障がい者の視点で身の回りを見直す姿勢を育てる。（トイレの話）（1時間）
- ・障がいは「個人」ではなく「社会」の側にあるということに気づく。社会の一員として社会をどう変えていくべきかを考える。（障がいの個人モデル・社会モデル）（1時間）

工夫した点

- ・実際に川越町、川越中学校にある人権マークや施設などの写真を撮影し、提示することによって、身近な問題であり、自分自身に関わる問題であることを実感できるようにした。
- ・前時からの学習のつながりを大切にした。そのため、導入時に学級通信を用いて前時の内容を確認したり、生徒の考えや感想などを共有したりした。
- ・教師が自分自身の経験を話すことで、生徒たちが自分事と考えるようにした。
- ・総合的な学習の時間の振り返りシートなどで、自分を見つめる機会をつくった。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

2年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・歴史学習を通して、部落問題の理不尽さを認識し、被差別の立場にあった人々がどのように差別に立ち向かい、行動を起こしていったのか、その考えや思いを理解する。
- ・部落差別解消推進法から、自分が「部落差別のない社会」を実現する主体者であることを学び、日常の自分の言動を振り返ることで、人権を尊重しようとする意欲を高める。
- ・西光万吉の生き方と水平社宣言に学び、自分の生き方を考え話し合う中で、ありのままの自分で生きることを尊重し合える学級にしていく意識を持つ。

実施した内容

- ・部落問題学習を始める前に、自分とクラスの仲間との関わり方の現状について見つめさせる。（1時間）
- ・部落史の学習の中で、部落差別の理不尽さを知り、部落問題について正しい認識を持つ。（7時間）
- ・西光万吉の生き方に学ぶ。（2時間）
- ・部落差別のない社会の実現に向けて自分の生き方について考える。（1時間）

工夫した点

- ・総合的な学習の時間の振り返りシートなどで、自分を見つめる機会をつくった。
- ・前時の学習とつなげるために、学級通信を使い生徒の授業感想や思い、考えを共有した。
- ・教師が自分自身の経験を話すことで、子どもたちが自分事と考えるようにした。

他教科との
関連

社会科の歴史学習において、学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

外国人の人権

対象学年・
取り扱った教科等

1年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・外国人に関わる人権問題の学習を通して、身の回りにある差別に気づき、その不条理さや差別の構造を理解する。
- ・外国人に対する偏見や差別をなくし、みんなが安心して生活を送れるようにするために、自分ができることを考え、行動していこうとする。

実施した内容

- ・多文化共生の必要性と必然性に気づかせる。（日本に住む外国人）（1時間）
- ・地域で暮らす外国人の方にどのように関わっていくか考える。（言葉の壁を越えて伝えよう）（1時間）
- ・誰もが暮らしやすい社会について考える。（川中ピクトグラムを考えよう）（1時間）
- ・教師の願いの中で経験を交えて話すことで、差別に向き合うことの大切さや、被差別の立場の人にとって、自分ほどの立場でありたいか考えさせる。（外国からの転校生）（1時間）
- ・昨今のスポーツ界で差別を許さない取組が進められていることから、自分自身も差別撤廃の主体者になれることに気づかせる。（日本における差別を許さない活動）（1時間）

工夫した点

- ・「日本に住む外国人」では、導入時に「世界のおはようゲーム」を行ったが、外国にルーツがある生徒の言語を用いたり、三重県に住む人数が多い外国人の言語を用いたりすることで、日本、三重県、川越町に住む外国人の暮らしや現状について関心を持つ導入とした。
- ・「言葉の壁を越えて伝えよう」の授業では、「みんなのできるかな？」という言語がわからない状況を体験することで、言語的マイノリティに属する側の不安感を体験させた。
- ・「川中ピクトグラムを考えよう」では、実際に川越町、川越中学校にある表示を見せることで身近な表示にふれさせた。また、障害者に関わる人権からつなげて、誰もが暮らしやすい社会に視点を置いてピクトグラムについて考えさせた。
- ・自分が逆の立場（海外にいと仮定して）であったらどうするかと、様々な場面で問うことで自分事として考えられるようにした。
- ・前時からの学習からのつながりを大切にした。そのため、導入時に学級通信を用いて前時の内容を確認したり、生徒の考えや感想などを共有したりした。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

2年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・「部落差別の解消の推進に関する法律」の存在を通して、今もなおインターネット上に差別を助長するような内容の書き込みがあり、部落差別をなくせずに人を傷つけることのある社会であるという事実を知り、部落差別の解消を自分たちの課題として捉える。
- ・普段何気なく使う身近なSNSを通じて、気づかないうちにまわりの評価を得た情報に流されている現状を振り返り、噂・風評に流されることが差別につながることに気づく。
- ・一つひとつの情報について自分で判断していく力が必要であることに気づき、その力が差別・偏見・風評被害をなくすことにつながることを知る。

実施した内容

- ・2016年に制定された「部落差別の解消の推進に関する法律」や制定された背景について知る。
- ・「部部落差別の解消の推進に関する法律」に基づき、自分たちが「差別をなくす行動」を起こせるように考える。（1時間）
- ・学習前にSNSに関するアンケートを実施し、アンケート結果から見えてくる自分たちの問題点を考える。（1時間）

工夫した点

- ・学習の前に子どもたちを対象にSNSについてのアンケートを取り、アンケート結果から見えてくる問題点について、班で話し合う場面を設定した。
- ・部落問題学習で学んだ差別の問題と、現代の自分の周辺にある噂や風評に流されることを結びつけて気づかせることで、同じ差別の問題であることに気づかせた。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

新型コロナウイルスに係る人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等1年・2年・3年
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があることを理解する。
- ・感染者が安心して過ごすことができる関わり方や態度について考え、感染者を責めるのではなく、受けとめようとする意識を持つ。
- ・作成した宣言を意識し、いじめや差別をなくすための実践行動ができる力を高める。

実施した内容

- ・新型コロナウイルスの国内感染者数や他の国の感染状況を知る。
- ・新型コロナウイルスのニュースを聞いて、どんな気持ちか考える。
- ・自分が新型コロナウイルスに感染したとして、治療を終えて登校してきたときに、クラスにどのように関わってもらったら安心できるか、意見を書き発表する。
- ・クラスの誰かが感染しても、いじめや差別を心配せず安心して過ごせるよう、クラスの「安心宣言」を班で作る。（2時間）

工夫した点

- ・新型コロナウイルスの様々なニュースを聞いて、どのような気持ちになっているか、選択肢から気持ちを選び理由を記入することで、生徒の心の状況をつかんだ。
- ・200人に1人が感染しているという授業時の最新の数値をもとにすることで、誰もが感染してもおかしくない状況であることを確認した。
- ・班ごとに作成した宣言を担当が学級通信等に記載し交流した。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

川越町立川越中学校

人権課題

災害と人権

対象学年・
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 災害時に災害弱者が困ることを考え、地域の一員として自分たちにできることを発信する。
- ・ 地域との関わりの中から、人と関わることの大切さを考え、温かさを感じ取れるようになる。

実施した内容

- ・ 自分たちが住む地域について知り、災害時にどのようなことが考えられるかを話し合う。（1時間）
- ・ 避難所がどういう場所なのかということ学習し、川越中学校が避難所となるときに直面する課題を考える。（1時間）
- ・ 「避難所設営図上訓練（HUG）」を使い、実際に想定される避難所での生活を体験する。（1時間）

工夫した点

- ・ 災害時の避難所でのイメージをもてるように、「川越中学校が避難所となったとき」を考えたり、「避難所設営図上訓練（HUG）」を使ったりした。
- ・ 総合的な学習の時間の振り返りシートなどで、自分を見つめる機会をつくった。

他教科との
関連